

「近隣の自然の変化に目を向ける No. 3

チューリップとヤマブキ Tulips and Japanese roses」

Happy Easter

2020年4月13日

主の御名を賛美します。

昨日はイースター（復活祭）でした。Happy Easter!と挨拶を交わし、早朝、広場に集まり日の出を待って2000年前のキリスト復活を覚えて、新たな命に与った喜びと感謝を表します。子どもたちは、草むらに隠された玉子を捜します。玉子は良い子に玉子とお菓子を持ってきたことに由来すると言われていています。サンタクロースを思い浮かべますね。でもなぜイースターにウサギと玉子なの？ “生命”という共通点があるから、です。玉子は分かると思いますが、野ウサギは多産でよく動き回る動物だからだそうです。ドイツではハーゼと言って野ウサギの肉が食されます。

今年のイースターは、新型コロナのせいで教会に集まることが自粛され、玉子捜しも取り止めとなりました。子どもたちの楽しみが奪われ、元気に飛び回ることも諷められ、さびしいイースターでした。私は、50年余の教会生活の中で初めての経験でした。

でも、イースター礼拝は行われました。仙川教会では、山岸牧師が力強くメッセージをされ、特別フルーツ賛美と祈りが捧げられ、毎日曜日集まっていた仲間にライブ配信されたのです。受難週の祈りを重ねた後の日曜日（キリストの復活を記念して定められた日）に共にイースターの意味を再確認しました。キリストの復活こそ、危機・困難に立ち向かう命と力の源であることを改めて確認し、新型コロナに負けない覚悟をかためたのです。教会HPを開いてみていただきたい (<http://www.sengawac.com>)。

Happy and peaceful Easter in Jesus Christ !

今回の「自粛広場から」では、春の喜びに溢れたチューリップとヤマブキを選んだ。チューリップを見ると、幼稚園や保育園に集まっている子どもたちが思い浮かぶ。子どもたちが、庭で整列したり、円陣をつくって踊っている姿、また、チューリップの花を元気に歌っている姿とも重なる。雪にも負けないで園に通っていたのに、新型コロナで1ヶ月間も羽ばたけないのは、何ともかわいそうだ。

一方、ヤマブキの花言葉は、「気品」「崇高」。確かに、桜が終えた頃に咲くすがたは、黄色に衣替えした桜のようで、気品を感じる。白山吹の清楚さはまた格別だ。

http://sengawacx.com/LookNatureN03_2020.jpg

政府から7つの大都市に緊急事態宣言が出され、不要不急の外出と人の集まる営業を自粛するよう要請した。1ヶ月間、住民の8割が外出を自粛を実行すれば、クラスター感染だけでない特定不可能なルートによる汚染を封じ込めることができる、と専門家が予測している。個人営業者にはきつい要請である事は確かだが、政府が公平で信頼性と説得力のある保証を明示し、市民が一致して忍耐し、ウイルスの封じ込めを成就したいものだ。7割では2ヶ月ガマンとなる、それでは日本は疲れてしまい、社会経済の再生の力を削ぐことになるに違いない。いまこそ国の舵取り能力と判断力が問われる。

毎朝、先日からの感染者の増加グラフを見るたびに、見えざるウイルスの乱舞を叩きつぶしたくなる。しかし、恐れるのではなく今、自分ができる基本マナーと免疫力強化を心がけ、自粛協力をつづけるつもりだ。みなさん、ラグビーで知ったOne team精神を思い出そう！